

高齢者の交通問題では6月号で神戸町のバラタクシーをご紹介しましたが、今回は大野町の事例を紹介します。

大野町では、高齢者や障害者のための交通手段として、町が助成する形でタクシー（町内であれば一回300円、登録すれば自宅前の乗降可能）送迎があります。平成26年から始まっていますが、今年10月からはさらに進化させた「あいのりくんプラス」がスタートしています。大野町内どこからでも揖斐川町の揖斐川厚生病院まで一回1000円（二人で乗車なら500円ずつも可能）で送迎を行ってくれるサービスが始まったそうです。

大野町ではもともとバスを走らせていたのですが、隣の神戸町が始めていたバラタクシーを

高齢者の交通問題

～大野町の事例から～

見習ってタクシー事業に切り替えました。利便性を求める住民の声が大きく費用の面でも検討したところ、タクシー導入が望ましいと町が判断したようです。大野町は大垣市にくらべて小さな町ですが、高齢化率や一人暮らし高齢者の人口比率は似ている点があります。

新しいサービスは想像が難しいけれど

地域を回りながら高齢の皆さんのお話をお聞きしていると大垣市でも高齢者の交通問題は本当に深刻だと、つくづく感じています。

車を運転できなくなったら買い物や病院にもどうやっていけばよいのかという不安やバス路線があったとしても1時間に1本程度しかなく気軽に使えないといっ

た問題もあります。

少し乗っただけでも運賃が高額になるイメージがあるタクシーですので、それが市の助成のもとで、数百円～1000円程度できるという制度を想像することはなかなか難しいことかもしれません。

しかし一方で、車を運転できない高齢者にとって大切な乗り物として、公的に日常生活を助ける事業として位置づけた隣町があります。全く同じようにはいなくても、そうした制度をもっている隣町から学びながら、その解決方法について積極的な市民的な議論と調査、モデル事業等をすすめていくことの必要性を感じます。



はんざわ多美